

第5号
12/1

生活支援コーディネーター ～ 耳より情報局 ～

平成28年度から活動している生活支援コーディネーター。
住民が持つ情報、地域の力、専門職のスキル、企業の力を生かして、住民主体で高齢者生活支援体制を構築する（コーディネートする）のが生活支援コーディネーターの役割です。
そんな生活支援コーディネーターの活動情報を届ける「耳より情報局 第5号」です！

特集：「みんなで」取り組む高齢者生活支援

10月23日、今年度最初の「すいたの年輪ネット」を開催しました。通常年4回開催し、多様な団体の意見共有や協議を行うなど、生活支援コーディネーターにとっては「コーディネートの源」となる大事な協議会です。

第5号の耳より情報局では「すいたの年輪ネット」で確認した今後の取り組みを紹介します。

● 「みんなで」取り組むのが「すいたの年輪ネット」流！

令和2年度も残り4ヶ月ほど。残り少ないですが「すいたの年輪ネット」で取り組む、主な項目を確認しました。

- ①助け愛隊ボランティア養成講座の開催（12/23）
- ②高齢者生活サポートリストの改訂（3月を予定）
- ③市民フォーラムの開催（3月を予定）

この①～③を、これから生活支援コーディネーターが企画していき……ません。

各項目で「すいたの年輪ネット」委員による作業チームを結成してみんなで企画していきます。

作業チームでは、みんなでアイデアを出し、みんなで会場設営し、みんなで講師や受付などの役割を担うようコーディネートします。



感染拡大防止のため、作業チームは少数で。

これまで、①助け愛隊ボランティア養成講座作業チーム、②高齢者生活サポートリスト作業チーム、を結成し、開催してきました。

今後、③市民フォーラム作業チームを結成し、市民フォーラムに向けた企画を練っていきます。

「すいたの年輪ネット」の委員は会議での議論だけでなく、みんなで決めた内容をみんなで企画していくことで「我がこと」として取り組んでいきます。

●「みんなで」取り組んだ 高齢者向け LINE 講座、よりそいの木！

前号でもお伝えした「五月が丘地区福祉委員会×大阪大学学生グループ「すいすい吹田」×吹田市社協」による高齢者生活支援の検討会（以下、検討会）を定期的におこなっています。

その後も、高齢者の孤立孤独を防ぐため、手紙での「よりそい隊通信」で心の交流を続けています。

検討会では…

- ・最近、高齢者もスマホを持つ人増えたよね！
- ・5月頃の外出自粛時に「オンライン帰省」が流行ったけど、高齢者だと難しい人もいるんじゃない？
- ・コロナ禍、高齢者もストレスが溜まっているのでは？

という意見が出ました。

検討した結果、高齢者の孤立孤独を解消する手段として「LINE で写真や動画を送れるよう LINE 講座をしよう！」「コロナ禍、みんなの想いを葉っぱに書いて持ちよう！」となり、福祉委員会が毎年取り組んでいる「福祉のひろば」で「LINE 講座」「よりそいの木」のコーナーを設けることになりました。

LINE 講座

大学生が資料作成し講師役に。高齢者への案内は福祉委員会が行います。



よりそいの木

五月が丘地区内の障がい者作業所で「葉っぱ」の切り抜き作業、地区公民館に年内掲示します。



生活支援コーディネーターも、みんなが講座に関われるよう機材提供や全体コーディネートをしました。

令和2年12月発行

生活支援コーディネーター ～耳より情報局～

編集・発行 社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 電話 (06) 6339-1254 担当：新宅